

こもれび 武蔵野市社会教育委員だより

発行日：令和3年2月1日

編集：社会教育委員の会議

発行者：武蔵野市教育委員会

市ホームページではカラー版が  
ご覧になれます（右記QRコードから）



## 武蔵野市社会教育委員だより

令和3年2月1日 第9号

### 管内研修レポート

令和2年9月29日、コロナ禍における生涯学習施設の現状と対応、取り組みを知るため、市内4施設を視察しました。

#### ◆武蔵野ふるさと歴史館、武蔵野プレイス、コロナ禍のなかでの試みを聞く。

2020年は、コロナに翻弄された年でした。得体の知れないウイルスに生活を一変させられた年でもありました。自粛生活は、個人だけの問題ではなく、社会全体の問題となりました。

市民の楽しみの場である、各施設においても、休館などの対処が必要となり、多くの市民が、がまんを強いられる状況となりました。休館中、そして開館後の武蔵野市の施設は、どのように活動をしていたのか、再開させたのかを見学させていただきました。



#### 武蔵野ふるさと歴史館

ふるさと歴史館は、武蔵境駅から高架下沿いに西に歩いていくと、こじんまりした建物がその施設です。

武蔵野でどのような暮らしが営まれてきたかをわかりやすく展示しています。

公式マスコットキャラクター「むーくん」

この施設もコロナの影響により、多くの事業が開催延期となりましたが、新たな取り組みとして、市のHPに、「おうちで歴史館」と題し、市域内外の歴史や文化などの情報を21回も発信、そしてYouTubeを利用して、動画により文化や歴史を解説し、1,090回もの視聴があったといいます。企画展「武蔵野の地名」においては、オンラインで講演会を開催し、好評を得ていたようです。特別にその企画展を拝見させてもらい、地名の由来の面白さを再発見できました。興味がわいてくるような視点の企画展が多く、今後の展開が楽しみです。



#### 武蔵野プレイス



武蔵野プレイスは、武蔵境のシンボリックな存在の施設です。市内外から老若男女、多くの方から利用

されています。図書館を含む市民活動のニーズに応える機能的な施設です。特徴的なのは、その3割の利用者が10代で、青少年の居場所になっていることです。それが、19歳以下の青少年が自由に過ごせるティーンズスタジオですが、この見学時には、まだ入場制限があり、利用者が少なく、寂しい状況でした。多くの青少年が以前のように、利用できるのはいつのことになるのか？悩ましいところです。この施設も多くの事業が中止となりましたが、YouTubeチャンネル「ぶらっとプレイス」を開設し、ネットを利用する取り組みが行われていました。そして、感染防止対策を実施したうえで、利用者が不安をいだかないよう



に、心地よく利用できるための工夫をしながら開館しています。どちらの施設もコロナ禍のなかでも、市民のニーズに応えるべく、工夫や知恵をしぼって、いろいろ取り組もうとしていることが実感できました。ここしばらくは、油断できない状況が続きますが、今後も市民がこの状況下でも、元気になるような、そして、楽しめるような工夫をしていただき、乗り切っていただければと思います。（白田 紀子）

## 市民会館

武蔵境駅南口の武蔵野プレイスが舞台の大輪バラの花としたらそっと静かに咲くスマイルの様な市民会館…。昭和59年10月武蔵野における社会教育の振興を図るとともに市民及び地域社会の文化の向上と福祉の増進に寄与する為の施設で学習・文化・芸術・集会などの社会教育の活動に使用する為に設立されたとの事。全部で14室。

市民であれば一度は使用した事のある会館だと思います。私も子ども達(小1～3年)とお稽古の為使用させていただきました。その子ども達も今年20才を迎えました。

コロナ感染症に関しては万全の対策が取られていました。Wi-Fiの対応がされていない点について、委員から質問したところ、利用者は高齢者が多く、あまり要望がないため現在では対応していないが、今後利用者の意見を聞きながら検討していきたいとのことでした。

2階	講座室、第1学習室、第2学習室、会議室、多目的ルーム、第1和室、第2和室、美術工芸室、料理室
1階	保育室(プレイルーム)、印刷室、ロビー(ミーティングコーナー)
地下1階	音楽室、集会室

## 吉祥寺図書館

小さなオアシス吉祥寺図書館～気軽に楽しく知的な出会いを～

昭和62年11月14日に吉祥寺から歩いて5分、本町コミュニティセンターの並びに出来た吉祥寺図書館は、上記基本理念をもとに平成30年4月にリニューアルオープンしました。吉祥寺駅周辺の方々から愛着を持たれ、多様な層の利用者がいます。各層にどのような価値を提供するか。

- ①ビジネスパーソン：利便性の向上、
- ②来街者：ハイパーローカル情報の提供、
- ③ビジネス支援：街の情報の提供と発信、
- ④子どもと保護者：気軽さの向上、
- ⑤高齢者：緩やかにつながる場の提供、
- ⑥青少年：自己表現の場の提供、

この6項目をもとに魅力を高めたいとの事。約10万冊の本をそろえ子どもから高齢者まで楽しめホッとする図書館。ロビーで迎えて下さる方々のあたたかいまなざし、再度足の向く図書館だと思います。

“待ってるよ 人気の本が 届くまで” “写メ通話 図書館の中では ダメだって”

後日足を運ぶと、ロビーに“図書館マナー川柳”が飾られていました。

KICHIJOSHI  
LIBRARY

(荒井 恵風)

## 全国社会教育研究大会新潟大会

コロナ禍の学びを止めない試みは、今年の新潟大会でも実践されました。今大会では、『未来につなぐ「米百俵」～フェニックスの地ではじまるこれからの社会教育～』と、日本一の米どころらしい大会テーマを掲げ、去る令和2年11月12日(木)に新潟県内市町村に限定した参加条件で、開会式、事例発表、シンポジウム、記念講演、閉会式が集合開催されました。県外の者は、12月に一ヶ月間配信される動画を視聴することで研究大会に参加することとなりました。関係者の皆さまのご尽力に感謝申し上げます。

さて、筆者が視聴した動画では、新潟県内5市から社会教育の様々な事例発表が行われたわけですが、総じて「新しい社会教育をデザインする～つなぎ はぐくみ 響きあう 生涯学習社会の実現～」とする研究主題に集約されたものでした。その後のシンポジウムでも言及されていましたが、“新しい社会教育”とは、学びを通じた地域づくりと言えそうです。文部科学省の学びを通じた地域づくりの推進に関する調査研究協力者会議(平成29年3月28日)でも、人々の暮らしと社会の発展に貢献する持続可能な社会教育システムの構築に向けて論点整理が行われています。本市では、今年度4月に策定された第二期武蔵野市生涯学習計画で示された“学びおくり”の具現化に、今後益々期待するところです。

(助友 裕子)



## 東京都市町村社会教育委員連絡協議会の活動 第5ブロック研修会

日 時：令和2年11月22日(日)午後2時～4時

場 所：小金井市市民会館「萌え木ホール」

内 容：(1) 講演会「人形劇を通じて、地域の絆をつなぐ」

講師：結城 育子氏（国記録選択無形民俗文化財及び東京都無形文化財指定 公益財団法人 江戸糸あやつり人形 結城座）

(2) 各市発表「この一年の社会教育委員の活動と成果」



新型コロナウイルス感染症拡大により開催自体が懸念されていた第5ブロック研修会ですが、感染防止対策を講じた上で開催いたしました。本年は小金井市が主管を務め、小金井市に拠点を置く「江戸糸あやつり人形結城座」をお招きし、「人形劇を通じて、地域の絆をつなぐ」をテーマに人形劇の歴史や価値、人形がつなぐ絆についてご講演を賜りました。その後、各市代表によるあやつり人形の体験会をさせていただきました。海外の人形とは一線を画する日本のあやつり人形は繊細で感情豊かな動きをすることができることから技術もさることながら、体力も非常に必要とされることを少しの体験だけでも感じることができました。東京都の無形文化財に指定されている結城座のあやつり人形は江戸時代から385年続く世界に誇れる日本の伝統芸能であります。本年の新型コロナウイルスの影響で公演もなかなかできず存続危機に苛まれているというおはなしがございました。もともとは多くの公演を武蔵野芸能劇場で開催していたのですが、小金井市に拠点を移してから年に数回しか芸能劇場での公演をしなくなってしまったそうです。この状況を打破できた暁にはぜひ多くの公演を芸能劇場でも催していただきたいと思いました。それこそが市を越えて絆と伝統をつなぎ続ける一助になるのではないかと考えます。



第二部では第5ブロックに所属する、武蔵野市、三鷹市、小金井市、狛江市、調布市、府中市それぞれの活動報告を行いました。各市、本年はこのような状況下で想定していた活動が出来ていなかったため昨年の活動をベースに報告を致しましたが、どのような状況になっても社会教育の果たすべきことは多岐に渡りあることを改めて感じるとともに今できることとは何かを考えるべきであることも同時に思った研修会となりました。

(堀内 雄次郎)

### ■図書館で見つけた！ 社会教育委員イチオシの本■

蟹江憲史 著『SDGs（持続可能な開発目標）』中央公論新社（中公新書）（2020年）

SDGsということばに接する機会が多くなった。2015年に国連が定めた「持続可能な開発目標」のことである。著者はSDGsとは未来の世界のかたちなのだという。この本は2019年新型コロナウイルス感染症の流行も踏まえて2020年8月に出版された。「SDGsとは何か」から、企業や自治体がどう取り組むか、どう「自分ごと」にして行くかを、「ポストコロナ」社会のあり方とも関連させながら、広い視野からわかりやすく論じている。

SDGsは、現在はまだ「将来の目標」という性格も強いし、目新しさもあって抵抗なく受け入れられている。しかし、それを実現していくなかでは、いまは顕在化していない課題もいろいろと表面化するだろう。困難に直面することもまた多いだろうと思う。そんなとき、先に進んでいくために繰り返し立ち戻るべき出発点として、この本は役立つだろう。でも、それよりも、いま「未来の世界」へ出発するための道しるべとして、この本を手にするのが先かな、とも思う。

(光田 剛)



## ■ 社会教育委員 日々の活動紹介 ■

### 「社会教育委員の活動」

安部 忍

小中学校長会では、市や教育委員会の他、国や都から要請を受けて、約70種類もの委員会に分担して参加しています。社会教育委員もその中の一つで、小学校長会を代表して今年度初めて社会教育委員を務めさせていただいております。社会教育委員としての主な活動は、1か月に1回開催される定例会への参加です。18時30分から20時30分の約2時間の中で、事務局の生涯学習スポーツ課から示される議事に沿って報告や協議が行われます。今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため定例会が開催されたのは6月からとなりました。上半期は、教育委員と社会教育委員の懇談会、社会教育委員だより「こもれば」編集、令和2年度補助金審査、管内研修、都市社連協理事会・東京大会実行委員会のテーマ等に関する協議が行われました。また、6月には令和2年度「生涯学習事業費補助金」と「子ども文化・スポーツ・体験活動団体支援事業費補助金」のプレゼン審査が2回実施され、評価・採点・協議を行いました。10月定例会では、第二期武蔵野市生涯学習計画 ICT の活用による情報・機会の提供が話題となり、LINE を活用した市のサービスに関する協議では、児童・生徒のいじめや不登校の相談ができる機能を提案させていただきました。下半期も、学校現場の視点から貢献できるよう努めたいと思います。

### 「コロナ禍でも青少協として出来る事を」

本郷 伸一

青少協（青少年問題協議会の略称）は、市全体の大きな視点から青少年に関する諸問題を話し合う武蔵野市青少年問題協議会のもと、市立小学校12校の学区毎に青少年問題協議会地区委員会が設置され、青少年の健全育成のために様々な活動に取り組んでいます。私の所属している井之頭地区は、例年なら春には「CAP講習会」、夏休みには「むさしのジャンボリー」、秋の「井之頭まつり」、10月「一中フェスタ」11月「美化活動」など行っておりますが、今年は新型コロナウイルス感染（COVID-19）の影響を受け、開催出来ておりません。そんなコロナ禍でも地域の一人として何が出来るのか、役員会や地区委員会がなかなか開催出来ない状況で青少協井之頭地区として出来る事はないのかと考え、例年入学式で挨拶をさせていただきお配りしている防犯ブザーを、お手紙のみ添えてお配りしたり、青少協第一地区委員会と一中ブロック会として携行できる消毒液を生徒に配付したり、井之頭小の児童には夏休み前に、夏向けのマスクを配りました。また、屋外の開催なら出来るだろうと、地域や人数を絞ってお芋ほりなども行いました。本来であれば、例年の活動紹介を記載する所ですが、あまりにも新型コロナウイルスの影響が大きく、当たり前だったことが出来ないこの状況で地域活動の難しさを痛感した日々です。



毎年楽しみな「むさしのジャンボリーのハイキング」先頭グループに私がいま

## ICT の活用による情報・機会の提供の検討

LINE で武蔵野市と友だちになろう

第二期武蔵野市生涯学習計画「ICT の活用による情報・機会の提供の検討」について社会教育委員の定例会にて議題の一つとしました。武蔵野市 LINE 公式アカウントがリニューアルされ、メニューの一つに「講座・イベント」が設定されることに関して意見を求めたところ、電子申請について、相談業務機能について、チャットボット（会話形式による応答）機能の充実について等、意見が出されました。（事務局）

